

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第66号

目次

- 令和5年度企画展を開催…………… 1・2
- 収蔵資料展示 vol. 26を開催…………… 2
- 春の自然観察会を開催…………… 3
- 郷土資料館この一品⑳ …………… 3
- 史料整理の現場から⑮ …………… 4

令和5年度企画展を開催

鎌ヶ谷の小学校150年史

～千葉県誕生150周年記念事業～

郷土資料館では、3月16日(土)から「鎌ヶ谷の小学校150年史」をテーマに令和5年度の企画展を開催します。

明治6年(1873)に鎌ヶ谷市域に初めて小学校が設置されてから、今年で150年の月日が経過しました。この企画展では、明治・大正・昭和・平成の市内小学校のあゆみを当時の写真や様々な歴史資料でたどります。きっと地域と小学校の深い結びつきがよく理解できると思います。

なお、明治6年は現在の千葉県が誕生した年



昭和30年(一九五五)ころの第二分校(現南部小)

授業の開始や終了を知らせる振り鐘



大正14年(1925)の鎌ヶ谷尋常・高等小学校

でもあることから、今回の企画展は「千葉県誕生150周年記念イベント」の一環として開催します。

期間 3月16日(土)～5月26日(日)の午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
※毎週月曜日及び3月20日(水)、4月30日(火)は休館します

会場 郷土資料館2階展示室

展示内容

- (1) 明治前期の小学校 ～「学制」の時代～
- (2) 明治中・後期の小学校 ～「教育令」と「小学校令」の時代～
- (3) 大正から昭和初期の小学校 ～高等小学校の開校と「学校問題」～
- (4) 太平洋戦争のころの小学校 ～「国民学校」の時代～
- (5) 昭和中・後期以降の小学校 ～「六三三四制」の時代～

(2ページへ続く)

(1ページからの続き)

展示資料

- (1)写真：各時代の小学校の校舎・教室、授業や学校行事、教員や児童の集合写真などをパネル化して展示
- (2)歴史資料：小学校の沿革に関連した文書、各年代に使用された教科書やノート・答案・学習用紙、修業・卒業証書、通知表、戦前の「鎌ヶ谷村学事報告」、各小学校の



昭和30年(1955)ころの鎌ヶ谷小学校空撮写真

「設置届書」、小学校沿革誌、学校日誌、学校通信、学級通信、PTA広報誌、周年記念誌などの現物もしくは写真パネルを展示

- (3)モノ資料：教室で使用された机やイス、振り鐘、記念として配布された文鎮・筆箱などの現物を展示

図録の販売 今回の企画展に合わせ展示図録の販売を予定しています。詳細は決まり次第、広報や市ホームページでお知らせします

ギャラリートークを開催

担当学芸員による展示解説を行います。

日時 ①3月23日(土)、②4月11日(木)、
③4月24日(水)、④5月3日(金)、⑤5月4日(土)、⑥5月5日(日)

時間 いずれも午後1時30分～2時30分

定員 各回7人(申し込み先着順)

申し込み 郷土資料館 ☎445-1030

収蔵資料展示 vol.26

寺子屋「安川舎」で学んだ 中沢村の子どもたち

収蔵資料展示コーナーでは、令和5年度企画展の関連企画として、江戸時代に庶民の教育施設として成立した、寺子屋に関する資料を展示します。

寺子屋(手習塾とも)とは一般的に、江戸時代中期以降の町や村などにおいて、村役人などの有力者や寺院の僧侶、神社の神官といった人たちが近隣の民衆の子弟を集め、初歩的な教育を実施した場のことをいいます。寺子屋での教育は、明治5年(1872)に制定された「学制」によって、近代の学校教育制度が成立するまで継続しました。

市域の村の子どもたちが通っていた寺子屋のひとつに、中沢村の南に隣接する藤原新田



安川舎で使用されていた学習手本

(現船橋市)に所在した安川舎があります。今回の展示では、令和2年度郷土資料館セミナーでの竹中友亮氏の講演「近世後期鎌ヶ谷の教育～手習塾「安川舎」の場合～」をもとに、安川舎で使用された学習手本などから、学習の内容とその成果について紹介します。併せて、寺子屋で学んだ子どもたちが師匠を顕彰するために造立した筆子塚(塔)について、市域及び隣接地に所在する4基を写真パネルで紹介いたします。

早春の大津川沿いを歩こう

～春の自然観察会～

春の訪れが待ち遠しい今日このごろ。郷土資料館では一足早く「春の自然観察会」を開催します。

市域の北部に位置する大津川沿いは、自然をよく残していると言われる地域です。この観察会では大津川沿いを散策しながら、野鳥や植物などを観察します。あなたも早春の自然とふれあってみませんか。

日時 3月2日(土)午前9時30分～正午(雨天の場合は翌3日(日)に順延)

場所 北部公民館に集合(車でのご来場はご遠慮ください)

定員 25人(多数の場合は抽選)



一足早く春の訪れを感じてみませんか

講師 唐沢孝一さん(NPO法人自然観察大学 学長)

会費 50円(保険料)

服装 歩きやすい服・運動靴

申し込み 2月15日(木)までに郷土資料館 ☎445-1030へ(抽選結果は2月18日(日)までに連絡します)

郷土資料館この一品②④

唐箕(とうみ)

今回は、常設展示室「民具コーナー」の奥の方に並んでいる唐箕をご紹介します。

唐箕は米づくりの道具として教科書などにも登場することから、よく知られている道具のひとつだと思います。郷土資料館で収集した民具の中でも農具は特に多く、その中でも稲作の道具はとて多くありますが、鎌ヶ谷市域の水田は昭和40年代(1960年代後半)から急速に減少し、平成の終りころには水田がなくなりました。現在、市内では農業としての稲作は行われていません。

唐箕は風の力を利用して、穀物の精粒(せりゅう:通常の生育状態)、くず粒、ワラくずなどを選び分ける道具で、江戸時代中期(1700年代)ころに中国から伝わったとされていますが、広く普及するようになったのは大正期になってからです。構造は穀物を入れ



展示している「唐箕」

る漏斗(じょうご)部、板の羽を回転させて風を起こす送風部、選別用の胴部で構成されています。選別の口は3つあり重い精粒が漏斗下の第1の口、やや軽くくず粒が第2の口に落ち、ワラくずは大きく開いた第3の口から吹き飛ばしました。機械化が進む昭和30年代(1960年前後)ころまで使われました。現在の君津市域は唐箕の生産が有名で、「上総唐箕(かずさとうみ)」として、関東一円で使用されました。展示している唐箕も漏斗部分に「君津式」と墨書きされています。

【史料整理の現場から⑮】

昭和30年、東武鉄道の「ストライキ予告ちらし」

市内佐津間の旧家である澁谷家には、近世～近・現代の膨大な資料群が残されており、市は昭和59年（1984）から整理を続けています。昨年度その大半を市にご寄贈いただき、現在その整理作業も第15次にまで及んでいます。

澁谷家旧蔵文書では特に近・現代の史料の中に不用となった紙（反故紙と呼ばれる使用済み、未使用の紙類）の裏紙を使用して作成した書類が多く見られます。今回は再利用した裏面ではなく、印刷された表面に着目してみましよう。

写真は昭和30年3月25日付けの東武鉄道株式会社（以下東武）が作成配布したストライキ（以下スト）予告のちらしです。「御乗客の皆様へ！」と題し、東武鉄道労働組合（以下東武労組）賃上げ要求の結果次第で翌26日に柔軟闘争（電車は運行するが主要駅では改札口で切符に鉄を入れず回収もしない）、27日に24時間ストを決行する旨発表があったと、経営主である会社側が事情説明をして沿線住民に理解を求める内容となっています。春季賃上げ闘争（春闘）は正式には昭和31年から始まっており、このストはその走りだったといえるでしょう。

このストは東武1社だけではなく、全国の日本私鉄労働組合総連合会の101組合が参加し、全国一斉に行う予定でした。26日から27日未明に及ぶ各社の団体交渉で、7割近い会社は妥結、話し合いがついてストを中止していますが、東武は関東大手で唯一交渉が物別れとなり、27日は朝7時からストに入っています。東武野田線・東上線と東京、埼玉、千葉を含む1都5県にまたがるバス路線全線が運行休止になりました。当日は春休み中の好天に恵まれた日曜



ストライキの予告ちらし

日で、ストを知らずに駅まで足を運び、「スト決行」の立て看板を見てがっかりして引き上げる利用者も多かったようです。足を奪われた沿線の人々が、近場の映画館などに足を運び「映画館は満員の盛況」、発車しないバスをにらむ人たちを、同じ方向に相乗りさせていくタクシーは「ストに感謝？していた」といった新聞記事も見え、東武労組ストのお陰で売上げが増えた業種もあったようでした。

賃上げ以外の問題が未解決のため、また翌4月3日に24時間ストを決行することを、東武労組は会社経営側に通告しました。そのため、上記と同様の案内を4月2日付けの新聞などに東武は掲載していますが、幸いなことに同日夜からの徹夜交渉で妥結し、2度目のストはなんとか回避されました。

昨年夏に都内のデパートが休館ストをしたのは記憶に新しいですが、昭和30～50年代は、私鉄・国鉄各労働組合の春闘に関わるストは珍しいことではありませんでした。現在では、国民の足である鉄道が動かないことは考えられませんが、50歳代以上の方には昼間に駅のシャッターが降りている光景を覚えている方も多いのではないのでしょうか。

裏紙として再利用されたからこそ残された歴史のひとコマに巡り会える、史料整理という仕事は、そんな未知との遭遇に溢れています。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第66号 令和6年2月1日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html